

おりひめちゃんが行く！

交野戦国絵巻 十一の巻

問い合わせ 社会教育課文化財係(TEL 893・8111)

徳川家康と星田

天正10年(1582年)、本能寺の変で織田信長が明智光秀に討たれたときに、徳川家康は堺から三河まで、敵の目を避けながら極秘裏に帰国しました。そのルートは、星田を通った可能性が高いと考えられています。星田の平井家が家康を敷に一晚隠し、村人の案内で山城国へ抜けさせたと言われています(写真①)。



慶長20年(1615年)、豊臣家と徳川家の最後の戦である大坂夏の陣で、交野は豊臣軍に攻められ、焼け野原になりました。一方、星田は徳川方の武將、市橋長勝の領地でした。長勝は知略に優れた武將で、影響力を増していた徳川家の参謀のような役割を担っていました。その長勝の策で、京都と大坂の中間地である星田に、家康が大坂城へ攻め込むための陣を確保したため、星田は戦災から免れました。

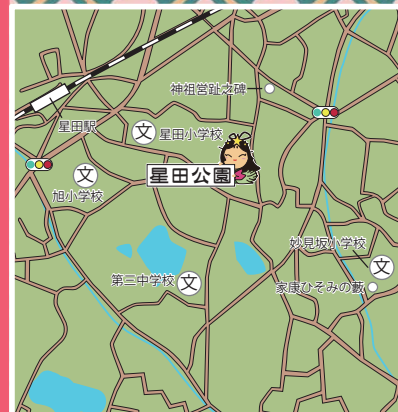
家康は大坂城へ攻め込む前日に星田に入り、武家の神である八幡神を祀る新宮山(現在の星田公園)に陣を張り、夜は平井家で休みました。この時に旗を立て掛けたと伝えられる、山頂の「旗掛け松」があつた付近には、現在2代目の松が植えられています(上写真)。



写真② 神祖宮趾之碑



写真① 家康ひそみの藪



おりひめちゃんの歴史コラム

神祖宮趾之碑(写真②)〈市指定文化財〉

「神祖」とは、徳川家康のことです。この石碑には、大坂夏の陣で星田に宿陣した家康と、献身的に仕えた市橋家や平井家の活躍が記されています。江戸時代の終わり頃、幕府の権威が揺らぎつつあった時代に、家康を神祖として顕彰し、幕府の権威を復興しようと建てられたものです。

企画展「おひなさま」

市に寄贈された、江戸時代後期から昭和初期の雛人形や雛道具を展示します。
展示期間 3月8日(日)まで ※月・火曜日、祝日は休館
時間 午前10時～午後5時(入室は午後4時30分まで)
ところ 教育文化会館(歴史民俗資料展示室)

